

2 地球温暖化の影響^{えいきょう}

社会…日本の地域
的特色と地
域区分
理科…気象とその
変化
自然と人間
家庭…衣食住の生
活
保健…傷害の防止
について

【災害の名称】^{めいしやう}

・大きな災害を起
こした自然現象に
ついては、経験や
教訓を後世に伝え
るため、気象庁が
名称を定めています。^{めいしやう}

(1) 災害の発生

福岡県でも、毎年のように豪雨^{ごうう}災害が起きるなど、地球温暖化の影響^{えいきょう}とみられる自然災害が多く発生しています。地球温暖化が進行すると、大気中の水蒸気が増えるため、降水量が増えたり、台風の勢力が強くなったりすると考えられています。

■ 福岡県での水害の例^{*}1

平成29年7月九州北部豪雨

被害の概要

甚大な 人的被害と家屋被害

平成29年7月九州北部豪雨では、筑後川の支川である山地部の中小河川において、大量の土砂や流木による堤防の決壊や河道閉塞などの被害が多く発生しました。これにより、県内では死者・行方不明者39人、重軽傷者21人の人的被害、住家全壊287件など2,520件に上る家屋被害が確認されています。

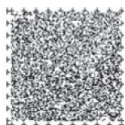
大量の流木が 市街地にまで到達

県内ではこのほか、道路被害640件、橋梁被害95件、河川被害474件、土砂災害220件などの被害が発生しました。河川上流域で多数の山腹崩壊が発生、土砂と一緒に流れ出た大量の流木が市街地にまで到達。この流木が被害の拡大を招きました。

山地部の 中小河川流域における 避難対策が課題に

犠牲者の多くは、山地部の中小河川流域で、また、自宅など避難場所以外の「屋内」で被災したと推定されています。雨足が急激に強くなって災害が発生するまであまりにも短時間だったため、指定避難場所など安全な場所へ避難することが難しかったことなどが要因として考えられています。山地部の中小河川流域における避難対策が喫緊の課題として浮上した豪雨災害となりました。

(左上) 朝倉市立比良松中学校
(右上) 朝倉市 山の神ため池
(下) 東峰村栗松地区 (ほうしゅ楽舎)



*1 福岡県防災ハンドブック改訂版(福岡県) | 36ページから転載^{てんさい}



<調べてみよう>



自分の住む地域で過去に発生した災害を調べてみよう。また、地球温暖化の^{えいきょう}影響と考えられるか話し合ってみよう。

(調べ方のポイント)

- ・インターネットで^{けんさく}検索する。
- ・家族や地域で^{くわ}詳しい方に聞く。
- ・図書館、博物館、科学館などを利用して調べる。

※参考となるウェブサイトの例

- ◇ 災害をもたらした気象事例^{*1}
- ◇ 福岡県の災害年報^{*2}
- ◇ 福岡県防災ハンドブック^{*3}



気象事例^{*1}

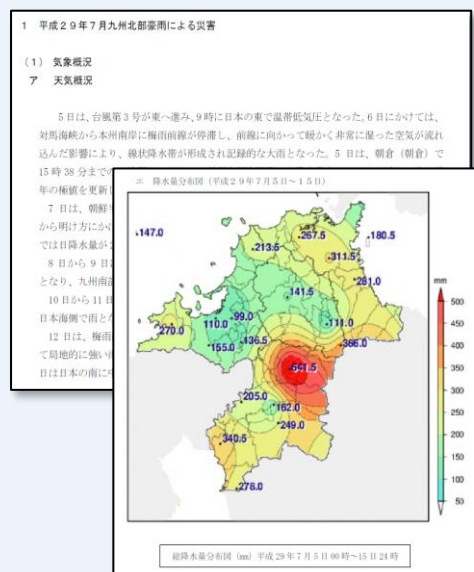


災害年報^{*2}

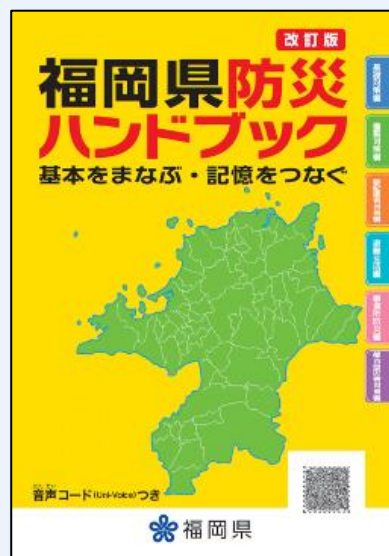


防災ハンドブック^{*3}

■ 福岡県の災害年報



■ 福岡県防災ハンドブック



◇ メモ

- *1 気象庁トップページ→各種データ・資料→災害をもたらした気象事例
- *2 福岡県ホームページ→テーマから探す→防災・くらし→防災・国民保護→災害情報
- *3 福岡県防災ホームページ→災害知識→福岡県防災ハンドブック